

公会堂の力石

小袋谷公会堂にある力石について、鎌倉市が刊行した「としよりのはなし」に書かれている話を要約すると、力石は公会堂の下にある。二十六貫（九七、五kg）の石と十八貫（六七、五kg）の石があった。文次郎という力持ちが十八貫の石を前から肩へそして背中に回しそれを逆に前に戻したり、地面から一息に差し上げた、とあります。

何人もの長老に力石についてお尋ねしたところ、子供の頃公会堂の修理の為に床板をはがしたので下をのぞいたら力石があるのを見た話や公会堂の建て替えの時にそこにあった力石を一つ隣家の庭に移した話を聞きました。その時公会堂の隣家に行くと庭に力石が一つあるのを確認できました。二つの内どちらなのか重さを量ってみたら百kg近くありましたので二十六貫の石だと思えます。十八貫の石の行方はわかりませんでした。

力石の由来は大きく分けて三種類あります。一つ目は歴史上の英雄豪傑の伝説に基づく石、二つ目は昔村や町の力自慢が力くらべをした石、三つ目は江戸時代後期に大石を持ち上げることなどが見世物として興行された時に傑出した力持ちが持ち上げた石です。公会堂の力石は二つ目に該当するそうです。

兎に角、昔娯楽が余りなかった時代に農作業などの休みの時、若者達が力くらべをして楽しんだ石なので小袋谷の民俗文化資料として価値がありその伝承の為に、町内会は力石を公会堂の前に移しいつでも見てももらえるようにしました。